

平成21年8月1日

いしかわ農地・水・環境協議会

■地域の連帯感を高める工夫

中能登支部【小川水土里の会】

能登最高峰の宝達山近くで活動している「小川水土里の会」では、宝達志水町小川地域の連帯感が高まる活動を心がけています。

たとえば花壇づくりでは、各家庭から花を持ち寄っていただき、多くの人が花壇にかかわり愛着を持ってもらえるようにしました。

場所についても、朝夕の散歩や通学路に使う農道に羽咋（現中能登）森林組合からいただいた木材を使って作り、道行く人たちに木のぬくもりと手作りの優しさが伝わるようにしました。

作業当日は、子ども会、女性の会、老人会、小川区役員約90人が参加し、約160mの農道を草むしりやゴミ拾いから始め、18箇所の花壇に何の花を植えるか相談しながら進める大変賑やかな作業となりました。（写真）



管理は、老人会や女性の会にお願いしましたが、作業中には中学生や散歩の人々に声を掛けられ大変励みになったと聞いています。

小川水土里の会では、今後とも地域の連帯が高まる活動に取り組んでいきたいと思っています。

■ため池外来種駆除及び在来種放流による生態系保全

南加賀支部【小塩辻町資源保全会】

生態系保全に係る、啓発・普及及び実践活動として、加賀市の「小塩辻町資源保全会」では、数十年前から『さかな取り』と称して、毎年ため池の外来種駆除及び在来種放流を実施しています。

町内に点在する4箇所のため池の内、年に1箇所ずつ11～12月頃に水抜き作業を行い、全ての魚を捕獲し外来種であるブラックバス、ブルーギル等の駆除を行っています。（写真）



昨年の外来種駆除と同時に実施した池内生物の生息状況調査の結果、外来種の外に鯉、鮒、鰐、ソウギョ、カメ、ザリガニ、メダカ、カラス貝等が生息していましたが、近年の外来種移入による繁殖が進み、メダカ等の小魚が極端に減少しているように思われます。捕獲した在来種である鯉、鮒、鰐等は別のため池へ放流します。また、1～2週間後に水位の回復したため池へ鯉等の稚魚、3000匹を放流します。

本活動は農業者・町内会・壮年団・子供会等、町内各団体に参加をお願いし、地域住民の交流活動の機会として、今後も継続していく予定です。

■水路の目地補修について

県央支部【舟橋グリーン会】

津幡町の「舟橋グリーン会」では農地・水向上活動として、水路の目地補修に取組みました。老朽化が進み、剥がれ落ちたベンチフリューム側溝の目地を補修することで水路の長寿命化を図りました。最初に水路の土砂上げを行い、目地部を清掃した後に目地材を詰め（写真：右下）、補修しました。

補修後は水路漏れも無くなりました。（写真：左下）今後も地域全体で農業用施設を大事に守っていきたいと思います。



■子どもに伝える、地域の自然

奥能登支部【直地区農地・水・環境保全協力会】

珠洲市の「直地区農地・水・環境保全協力会」が活動を行っている野々江・熊谷（くまんたに）地域は、鹿野山（かのやま）のふもとに広がる水田地帯です。平成17年度から県営ほ場整備事業野々江地区が実施されおり、これに伴い鹿野の里検討委員会が設立され、環境配慮計画を実施しています。本協力会も、地区で確認された外来種の駆除や、在来動植物の保全保護等を行っています。

今回、地区にある直（ただ）小学校の3年生10名、4年生17名、石川県奥能登農林総合事務所、珠洲土地改良区、珠洲市が参加して環境配慮施設での生き物調査を実施しました。

（写真）児童は、アユやフナ、ウグイ、コイ、アメリカザリガニ等を捕まえた後、水辺に住む生き物の種類や、外来種と在来種とのかかわりについての説明を真剣に聞いていました。

また、新しく設置された水路では、昨年度に工事を行う水路から移植したドブガイが確認され、その稚貝を発見するなど、自然環境が保全されていることがわかりました。

今後も子ども達と、地域の自然や外来種問題などを課題として、農村・農業環境を次世代へ残し伝えて行くことを考えています。

【編集後記】

これからは、暑い日が続くと思いますが、屋外での活動を行う際には水分補給や熱中症対策を心がけていただけようお願いいたします。日頃の活動内容を広報誌等にして、夏休み中の子どもたちや地域のみなさまに紹介するのも良いかと思います。

各地域の活動紹介にご協力お願いいたします。

〒920-0362 石川県金沢市古府1丁目197番地 石川県土地改良事業団体連合会内

いしかわ農地・水・環境協議会

事務局：中 正樹